

## 2. 現況および課題の把握

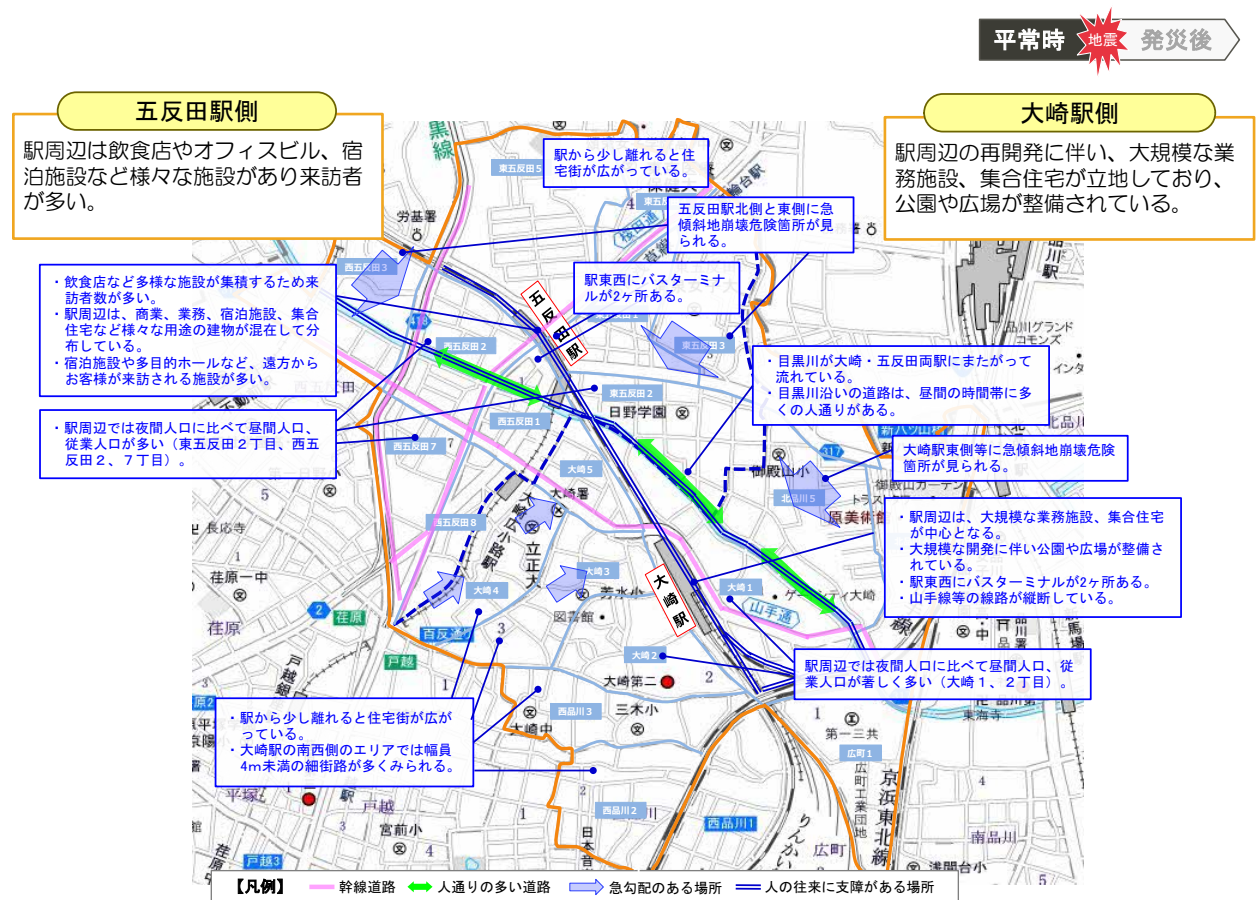
### ② 基礎データや協議会での地域特性の確認結果（平常時）

基礎データや平成 29 年度に実施した大崎駅周辺地域都市再生緊急整備協議会 都市再生安全確保計画部会において、構成員（国、都、防災関係機関、都市開発事業者、建築物の所有者・管理者・占有者等、鉄道事業者、ライフライン事業者 等）から出された平常時の地域特性は、以下のとおりである。

図表 82 地域特性の確認結果（平常時）<sup>71</sup>

		五反田駅側	大崎駅側
人・場所の特徴	人の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺では夜間人口に比べて昼間人口、従業員人口が多い（東五反田2丁目、西五反田2、7丁目）。</li> <li>飲食店など多様な施設が集積するため来訪者数が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺では夜間人口に比べて昼間人口、従業員人口が著しく多い（大崎1、2丁目）。</li> </ul>
	場所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺は、商業、業務、宿泊施設、集合住宅など様々な用途の建物が混在して分布している。駅から少し離れると住宅街が広がっている。</li> <li>宿泊施設や多目的ホールなど、遠方からお客様が来訪される施設が多い。</li> <li>駅東西にバスターミナルが2ヶ所ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺は、大規模な業務施設、集合住宅が中心となる。駅から少し離れると住宅街が広がっている。</li> <li>駅東西にバスターミナルが2ヶ所ある。</li> <li>大規模な開発に伴い公園や広場が整備されている。</li> </ul>
がけ地、狭あい		<ul style="list-style-type: none"> <li>五反田駅北側と東側に急傾斜地崩壊危険箇所が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大崎駅の南西側のエリアでは幅員4m未満の細街路が多くみられる。</li> <li>大崎駅東側等に急傾斜地崩壊危険箇所が見られる。</li> </ul>
道路の特徴	歩行者の多い道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>目黒川沿いの道路は、昼間の時間帯に多くの人通りがある。</li> <li>線路沿いの道に関しては昼夜とも、人通りは多くない。</li> </ul>	
	幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道1号（桜田通り）、環状6号（山手通り）</li> <li>首都高速環状線、首都高速2号目黒線</li> </ul>	
	東西の往来	<ul style="list-style-type: none"> <li>目黒川が大崎・五反田両駅にまたがって流れている。</li> <li>山手線等の線路が縦断している。</li> </ul>	

図表 83 地域特性の確認結果（平常時）のまとめ 72



## 2. 現況および課題の把握

### (3) 災害時の課題

基礎データおよび地域特性の確認結果（平常時）を踏まえた、駅周辺の災害時における課題は、以下のとおりである。大崎駅周辺地域都市再生緊急整備協議会 都市再生安全確保計画部会において、時間経過に伴う課題を抽出し、7つに集約した。

図表 84 災害時の課題 <sup>73</sup>

時系列(目安)	五反田駅側	大崎駅側	課 題
発災	<ul style="list-style-type: none"><li>東五反田 1、3、4丁目、西五反田 1、2、7丁目には公園が 1ヶ所も立地しておらず（駅前広場を除く）、一時的に安全を確保するために避難する場所が少ない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>大崎 3、4丁目、西品川 2、3丁目付近には小規模な建物が密集しており、駅周辺の地域よりも若干、耐火性の観点では不安がある。</li><li>大崎 1丁目は目黒川と線路に囲まれており、橋が壊れてしまうと避難や物資搬送が滞ってしまう可能性がある。</li></ul>	【1】 直接被害の軽減
安全な場所への避難			【2】 退避場所・退避経路の確保
3時間			【3】 滞留者の発生防止
駅周辺への滞留			【4】 円滑な避難誘導
6時間			【5】 共助による滞留者支援
一時的に滞在できる場所を探す	<ul style="list-style-type: none"><li>大規模施設において、都の条例に基づいた指導がされている場合でも、各テナントの備蓄状況の実態を把握しきれていない部分もある。</li><li>大規模な施設では、ビルスタッフの人数が限られており、災害時において効率的な対応が求められる。</li><li>避難所も不足するなか地域の住民組織とどのように連携していくか検討していく必要がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>鉄道が止まり駅に入れない状態が長時間続くと、駅周辺で多くの人が滞留する可能性がある。</li><li>滞留者・帰宅困難者が駅周辺に集中する可能性がある</li><li>駅周辺のがけ地等から、傾斜に沿って駅方向に人が自然に流れてくる可能性がある。</li></ul>	【6】 発生した滞留者の一時滞在
12時間	<ul style="list-style-type: none"><li>災害時における区との協定締結に基づく活動は、迅速な連携が困難であると予想されるため、独自の行動が必要である。</li><li>個々の事業者や団体で情報収集できない際、どのように情報を入手するかが課題となる。</li></ul>		【7】 帰宅者への支援
一時滞在施設での情報収集など			
3日後	(混乱の段階的な収束)		

図表 85 災害時の課題マップ（発災直後） 74

